

Environment 環境

未来のすべての子どもたちが「安心」して暮らしていくために、従業員、お客様やパートナー、そして社会とひとつになって、持続可能な社会の実現を目指し、誠実に取り組んでいます。サステナビリティビジネスを推し進める上でも重要となる、自然との共生に関する考え方や取り組み、TCFD・TNFDへの対応状況をご紹介します。

詳しくは、Webサイトをご覧ください

[☞ サステナビリティ > 環境](http://www.bridgestone.co.jp/csr/environment/index.html) www.bridgestone.co.jp/csr/environment/index.html

◎ 自然との共生

ブリヂストングループは長年にわたり、「環境宣言」に基づき、「自然と共生する」ために、「資源を大切に使う」技術を開発・活用し、喫緊の課題である地球温暖化に対して「CO₂を減らす」ことに包括的に取り組んできました。ネイチャーポジティブに向けては、自然保全だけでなく、資源の効率的な利用や持続可能な生産、気候変動対策など、様々な分野における行動を組み合わせる包括的なアプローチと変革が必要と考え、サステナビリティビジネスモデルにSBTs for Natureのフレームワークにおける「回避」、「軽減」、「復元・再生」、「変革」の考え方を織り込んで、より循環型・再生型のビジネスモデルへ進化させながら取り組みを進めています。

具体的には、2050年を見据えた環境長期目標である「生物多様性ノーネットロス（貢献 > 影響）」に基づき、水ストレス地域での取水量削減、大気・水域への排出削減など事業活動が与える影響を最小化しながら、生態系の保全・復元などにより貢献を拡大していくことで、生物多様性条約の2050年ビジョンである「自然と共生する世界」の実現に貢献していきます。

2022年は、19か国で148件^{*1}の環境貢献に関する活動（うち87件は外部パートナーと連携^{*2}、4,902人の従業員ボランティアが参加^{*3}）を25,972人の地域の方々と実施^{*4}しました。

*1 活動数の集計方法は国や地域によって異なります。

*2 外部パートナーとの連携集計方法は国や地域によって異なります。

*3 従業員ボランティア数は延べ人数であり、一部活動では推計値を含みます。

*4 活動による直接裨益人数を集計し、集計方法は国や地域によって異なり、確認できた活動のみを対象としています。

影響の最小化の例：

自社及び地域連携による取水量削減活動

当社グループが事業を継続していく上で水は不可欠な資源であると共に、水を利用する企業の責任として、水資源を持続可能な形で利用していくことが重要であると認識しています。2020年に策定した、公平かつ持続可能な水の利用に向けた「ウォーター stewardship ポリシー」[☞](#)に基づき、水ストレス地域に立地する生産拠点^{*5}を中心に、2030年までにそれぞれの地域環境に応じた具体的なウォーター stewardship プランを策定・実行していきます。2022年12月時点で、対象17拠点のうち12拠点でウォーター stewardship プランの策定が完了しています。

*5 淡水資源の量や質の低下のリスクがある地域に所在することにより水リスクを抱える生産拠点

[☞ ウォーター stewardship ポリシー](#)

www.bridgestone.co.jp/csr/environment/nature/footprint/pdf/water_stewardship_policy.pdf

》 水資源の保全への貢献

具体的な成果として、水ストレス地域にあるアルゼンチンのブエノスアイレス工場では、水利用の効率化に継続的に取り組んでおり、2022年に生産量当たりの取水量を2005年比で44%削減しました。

また、2019年にセメントメーカーのロマ・ネグラ社とパートナーシップを結び、工場の排水を浄化し、ロマ・ネグラ社のセメント製造の原材料として再利用することで、地域全体の取水量を削減しています。ブエノスアイレス工場は、2022年末までに累計35,000m³の処理水を提供してきました。また、工場内での取り組みだけでなく、ブエノスアイレス州ラバロール郊外でも水資源の保全に貢献する活動を行っています。今後も同地域における取水量の削減に貢献するプロジェクトを推進していきます。

貢献の拡大の例:

生物多様性貢献活動推進プログラム

当社グループは、未来のすべての子どもたちが「安心」して暮らしていくために、世界各地にある生産拠点で生態系の保全・復元活動を実施しています。

当社グループは、動植物やその生息地の保全・復元に貢献し、また様々なステークホルダーの皆様と共に活動に取り組むことで、「Bridgestone E8 Commitment」の「Ecology」に掲げる、より良い地球環境を将来世代に引き継いでいきます。当社グループは、約130^{*6}の生産・開発拠点をもち、150を超える国々で事業を展開しています。世界各地にある拠点で、地域社会との対話を通じてその地域に根差した生物多様性の保全活動を推進しています。生物多様性貢献活動推進プログラムなどの情報を社内の幅広いネットワークで共有し、各地域で生物多様性に関する研究・教育活動を展開することで、グループ内外にその重要性を伝え、さらなる貢献へとつなげていきます。

*6 2022年9月22日時点

》 植林の取り組み

タイでは、タイ ブリヂストン カンパニー リミテッド(TBSC) ノンケー工場の従業員が、周辺環境の緑化活動を実施しています。地域社会や自治体、ブリヂストンのお客様とともに工場の敷地内外に緑を増やし、自然との共生を目指した活動をしています。また、ステークホルダーの協力を得ながら、「生物多様性とは何か」、「廃棄物を減らすために何をすればよいか」などについて学ぶ機会を提供するなど、子どもたちの環境意識向上にも力を入れています。植樹プログラムも立ち上げ、2013年の開始以来、延べ2,680人の地域住民と200人の従業員が参加しました。このプログラムを通じて21,600m²の範囲に5,400本の東南アジア原産の木が植樹され、樹木の寿命に換算して推定349トンのCO₂吸収に貢献しています。



植樹の様子

》 ウッドローン野生動物保護区

米国メリーランド州セシル郡の農村地域に位置するウッドローン野生動物保護区は、かつては埋立処分地でしたが、現在は動物の生息地として保護されています。ブリヂストンは2000年代初頭から、野生動物が生息できるように、この土地の整備に取り組んできました。保護区内には、森林、草地、湿地が混在しています。

当社は、メリーランド州天然資源局の森林管理プログラムに基づき、約50エーカーに及ぶ森林を野生動物のために保護しています。外来植物の除去には、学生や地域のボランティアの方々も参加しています。また、両生類の生息場所として、森林内に春になると水が溜まる季節性の池を作ったほか、木々の健康状態の観察を含む森林のモニタリングも実施しています。2001年からは草地に生息する動物が過ごしやすい環境を作るため、数種類の在来草原植物を植栽し、定期的にメンテナンスを行っています。草地では、樹洞に営巣する鳥のために敷地内に巣箱を設置し、使用状況などのモニタリングを行っています。

また敷地内には、案内板やベンチが設置された遊歩道があり、一般の方々にも開放されています。遊歩道では自然や野生動物を観察でき、環境学習の場として活用されています。



野生動物保護活動